議会だより

［題字］加木　千鶴さん（東田原団地行政区）

第132号
かわさき
平成30年11月1日発行
福岡県川崎町

▲グランプリ受賞親子は（P16）

9月 定例会議

中学校統合推進事業など認定…… 2
議会報告会のお知らせ…… 4
６人の議員が登壇 ～ 一般質問 ～…… 6

川崎町議会ホームページ
川崎町議会　検索
QRコードからもご覧になれます▶
http://www.gikai-kawasaki.com/

今年度の議会だよりの表紙は、≪大好き かわさき町≫がテーマです。
みんなの大好きな川崎町に関する写真のご応募をお待ちしています。
川崎町役場　議会事務局　ご持参または郵送ください
［お問合わせ］　議会事務局　☎72－3000　内線（318･319）

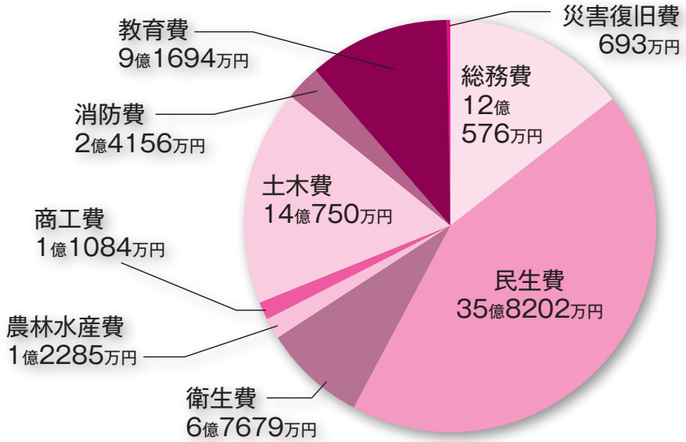
平成29年度決算認定

一般会計

中学校統合推進、総合福祉センターの建て替え、超高速ブロードバンド環境整備、城山子どもの森整備、などの事業を認定

決算総額は、歳入106億1490万円、歳出100億6393万円で、翌年度へ繰り越すべき財源18万円を除き、実質収支額は5億5080万円の黒字決算となりました。

歳出の主なもの



総務費

人権研修、ニューイヤーコンサート、ふれあいバス買い替え運行など。

民生費

子ども医療費全額助成を中学3年まで拡大、子育てサークル事業など。

衛生費

引き続き総合健康診査の無料化を実施、環境パトロールによる不法投棄監視など。

農林水産費

荒廃した森林の整備、新規就農者支援事業など。

商工費

新規事業として、自然豊かな城山の森を住民が憩える場にするため「城山こどもの森」整備事業に着手、パン博・グルメフェアなど。

土木費

豊州、大峰団地の建て替え事業継続、橋梁の長寿命化事業など。

教育費

新規事業として全小中学校に電子黒板を整備、池尻小学校の大規模改修を実施。

消防費

消防団の協力の下、火災予防運動を展開、火災出動13回、救急出動1042回。

災害復旧費

上豊州真崎線道路の災害復旧工事など。

特別会計

学校給食センター特別会計

歳入**1億5899万円**、歳出**1億6164万円**で、実質収支は**265万円**の赤字でした。

住宅新築資金等貸付事業特別会計

歳入**2411万円**、歳出**5億6892万円**で、実質収支は**5億4481万円**の赤字でした。

国民健康保険事業勘定特別会計

歳入**22億8333万円**、歳出**28億2341万円**で、実質収支は**5億4009万円**の赤字でした。よりいっそうの医療費の削減が最重要課題といえます。

後期高齢者医療特別会計

歳入**2億1700万円**、歳出**2億1395万円**で、実質収支は**305万円**の黒字でした。

水道事業会計

経営成績は、損益計算により経常収益－歳入**3億7586万円**、経常費用**3億6183万円**で、**1403万円**が当年度の純利益となりました。

財政健全化の10年の軌跡

本町の財政健全化は苦難の道のりでした。その推移を次の四つの指標から表してみました。

	平成20年度	平成29年度
財政力指数 ※1	0.27	0.30
経常収支比率※2	100.2	97.4
実質公債費比率 ※3	13.8	8.5
町税徴収率	95.6	97.5

※1… 町の財政力を表す指標、「1」に近いほど財源に余裕がある

※2… 町が自由に使えるお金のうち支出が避けられない必要経費が占める割合

※3… 一般会計等で負担する元利償還金の標準財政規模に対する比率

これらの指標から、苦しみながらも行政の努力と住民の協力により一歩ずつ進んできていることが見てとれますが、財政力指数においては県下58自治体の中で50番目と低い位置にあります。

株式会社川崎De・愛　経営状況

株式会社川崎De・愛の平成29年度の経営状況について、報告がありました。

まず貸借対照表で資産の部の合計は、1280万7391円、負債の部合計は1135万4345円、また純資産の部では、資本金は1900万円、繰越利益剰余金は△1754万6954円で、平成30年３月31日現在の資本金の残額は145万3046円。

１年間の収支を示す損益計算書は右の表のとおりです。平成29年度の純利益は41万277円で、平成25年の会社設立以降初めての黒字決算となりました。

株式会社川崎De・愛　平成29年度損益計算書

科　目	金　額
売上高（A）	2021万9495円
売上原価及び販売経費（B）	2281万2796円
営業利益（C）＝（A）－（B）	△259万3301円
営業外利益・法人税等（D）	300万3578円
当期純利益（E）＝（C）＋（D）	41万277円

一般会計補正予算（第２号）

平成30年7月豪雨災害復旧事業など増額補正

歳入歳出7510万円増

総額114億4139万円となる

歳出の主なもの

- ○災害救助費……456万円
- ○農地災害復旧費……510万円
- ○農業用施設災害復旧費……80万円
- ○林業施設災害復旧費……1220万円
- ○道路橋梁災害復旧費……3264万円
- ○河川災害復旧費……480万円

一般会計補正予算（第３号）

De・愛橋整備事業など増額補正

歳入歳出8億1064万円増

総額122億5203万円となる

歳出の主なもの

- ○平成25年度地域の臨時交付金一部返還金……1億5291万円
- ○内木城地区分収林伐採事業……2083万円
- ○荒廃森林整備事業……217万円
- ○De・愛橋整備事業……8208万円
- ○防災無線移設（大峰地区）事業……158万円
- ○財政調整基金積立金……5億1765万円
- ○過疎地域自立促進特別事業基金積立金……4000万円

※金額については、千円以下を四捨五入しています。

条例一部変更

大型共同作業場5カ所から4カ所へ減

川崎町大字川崎1820番地の１にある大型共同作業場（旧荒巻縫製）は、利用者からの退所届が提出され、施設の老朽化も激しく利用困難であることから廃止されます。

町営住宅入居の公開抽選回数が増

町営住宅への入居申込があった場合、今まで公開抽選は年２回のみとしていましたが、抽選回数を年２回以上に変更し、住宅困窮者へより早く住宅の提供ができるようにするものです。

平成30年度 議会報告会

とき 11月23日(金・祝) 19：00から

ところ 川崎町コミュニティセンター
多目的ホール

※託児・手話通訳あります。
みなさまの声をおきかせください！

大規模災害への対応に向け先進事例を視察

議会災害時対応基本計画（熊本県大津町）

大津町議会は、平成28年４月の熊本地震で甚大な被害を受けた際、庁舎が甚大な被害を受けたこともあり、本会議の開催日数が制限され、被害状況や今後の復旧、復興への対応について十分な情報共有ができず、議会機能が発揮できない事態に陥りました。

その反省を踏まえ、住民の代表機関として町の団体意思を決定する議会は、大規模災害が発生した非常時においても、議会の機能を維持する必要性があり、さまざまな災害に対応する体制を構築するため、大津町議会災害時対応基本計画を策定しました。

この計画では、非常時における議員や議会事務局職員の行動基準を、初動期（発生～72時間）、中期（３日～７日）、後期（７日～１カ月）の３段階に分けて示すとともに、議員の安否確認の方法及び町災害対策本部と議会相互の情報共有に向けた仕組みも明記されています。

タブレット等を活用した災害情報伝達（熊本県菊池市）

菊池市は、平成28年４月の熊本地震で甚大な被害を受けた際に、被害状況の把握が電話での対応だったため、情報の漏れや錯誤等が多く発生し、正確な情報を得るまで時間を要しました。また、市民への災害情報等の提供においても、防災無線を聞き取りにくい箇所があったため、正確な情報を得られない市民が多く存在しました。

そこで利用者の特性に合わせた文字・音声・映像で情報を提供できるタブレットを、災害時の情報伝達手段として活用することで、迅速で正確な情報の伝達ができるようになったそうです。また、災害時には、区長等からタブレットを通じて、位置情報を含んだ映像等による被害状況の報告や、地域住民の安否確認ができ、情報の漏れ、重複、錯誤等が大幅に削減されています。

平成30年度　第3回川崎町議会（7月会議）
議案一覧と賛否結果

議案番号	案件名	賛否の結果															関連記事
		手嶋真	松岡	繁永	大谷	西山	千葉	谷口	小田	見月	原	手嶋康	櫻井	寺田	奈木野	樋口	
議案第10号	財産の処分について	（可決）簡易表決															
議案第11号	工事請負契約の締結について（平成30･31年度川崎町立統合中学校川崎中学校解体工事（２期））	（可決）簡易表決															

平成30年度　第4回川崎町議会（8月会議）
議案一覧と賛否結果

議案番号	案件名	賛否の結果															関連記事
		手嶋真	松岡	繁永	大谷	西山	千葉	谷口	小田	見月	原	手嶋康	櫻井	寺田	奈木野	樋口	
議案第12号	平成30年度川崎町一般会計補正予算（第２号）について	（可決）簡易表決															P3

平成30年度　第5回川崎町議会（9月定例会議）
議案一覧と賛否結果

議案番号	案件名	賛否の結果															関連記事
		手嶋真	松岡	繁永	大谷	西山	千葉	谷口	小田	見月	原	手嶋康	櫻井	寺田	奈木野	樋口	
報告第10号	平成28年度川崎町繰越明許費繰越計算書の修正について	報告のため採決はありませんでした															
報告第11号	平成29年度川崎町一般会計継続費精算報告書について	報告のため採決はありませんでした															
報告第12号	株式会社川崎De･愛の経営状況について	報告のため採決はありませんでした															P3
認定第１号	平成29年度川崎町一般会計歳入歳出決算認定について	（認定）簡易表決															P2
認定第２号	平成29年度川崎町学校給食センター特別会計歳入歳出決算認定について	（認定）簡易表決															P2
認定第３号	平成29年度川崎町住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算認定について	（認定）簡易表決															P2
認定第４号	平成29年度川崎町国民健康保険事業勘定特別会計歳入歳出決算認定について	（認定）簡易表決															P2
認定第５号	平成29年度川崎町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	（認定）簡易表決															P2
認定第６号	平成29年度川崎町水道事業会計決算認定について	（認定）簡易表決															P2
議案第13号	福岡県介護保険広域連合の処理する事務の変更及び福岡県介護保険広域連合規約の変更について	（可決）簡易表決															
議案第14号	田川地区水道企業団の共同処理する事務の変更及び田川地区水道企業団規約の変更について	（可決）簡易表決															
議案第15号	川崎町大型共同作業場等の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について	（可決）簡易表決															P3
議案第16号	川崎町営住宅設置及び管理条例の一部を改正する条例について	（可決）簡易表決															P3
議案第17号	平成30年度川崎町一般会計補正予算（第３号）について	（可決）簡易表決															P3
議案第18号	平成30年度川崎町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算（第２号）について	（可決）簡易表決															
議案第19号	平成30年度川崎町水道事業会計補正予算（第１号）について	（可決）簡易表決															
議案第20号	工事請負契約の締結について（平成30･31年度（継続費）社会資本整備総合交付金事業豊州改良住宅改善共同住宅B号棟建築主体工事）	（可決）簡易表決															

※簡易表決とは…あらかじめ議員全員の賛成が見込まれる場合に、議長が賛成者の起立を求めず「異議ありませんか」と諮ることにより可否を問う採決方法です。

一般質問 よりよいまちづくりをめざして

町政を問う!!

一般質問とは、定例会議において、各議員が住民の代表として、行政全般にわたり町当局の考え方や疑問をただすことです。

谷口 武雄 議員

問 登下校の防犯対策強化を

答 通学路の緊急合同点検を実施

議員 私は総務省が発信しております防犯ポータルサイトを基に質問をさせていただきます。今回のプランで注目をしたいのは、住民の高齢化や共稼ぎ家庭の増加により、地域の目が行き届かない見守りの空白地帯が増えている事を重視している点です。

国のプランでは、1つ　防犯カメラの設置推進、2つに　登下校防犯ポータルサイトの新設、3つに　地域マップ作り、4つに　防犯教育の充実、5つに　日常活動中で行う「ながら見守り」です。

以上、国が推進する安全対策についての川崎町の取り組みを教育長におたずね致します。

▲小学校の登校風景

教育長 今、御指摘のように、政府が決定いたしました登下校防犯プランに則って現在、川崎町でも学校、保護者及び地域住民による通学路の緊急合同点検を行っているところでございます。

田川警察署の協力のもと、過去2年間で呼びかけ事案等が発生した箇所の情報をいただき、不審者が身を潜めやすい場所等、危険箇所を確認し、その対策を行うものです。各小学校区の点検期間を9月末としております。その報告のもと、各関係機関、行政機関と連携いたしまして、今後の対策をつくっていくものでございます。

最後になりますが、他の係との協力のもと、区長会等に協力を求めて、ウォーキングや買い物、犬の散歩のような、見守りについても啓発活動をしていく必要があると思いますので、町長部局とも協力しながら検討して参ります。

松岡 久代 議員

問 学童保育の実施状況は

答 保護者の組織に委託している

議員 学童保育は家庭にかわる毎日の生活の場であり、第2の家庭とも言われています。

下校し学童保育へ行く子どもの継続性の見届けを学校と連携されていますか。

町長 学童保育は、厚生労働省が所管しておりますので、学校教育委員会が直接介入することはございません。

運営につきましては、川崎小・川崎東小・池尻小・真崎小・すみれ学童を川崎町学童クラブ運営委員会連絡会が対応し保護者会に委託している状況です。

議員 学童保育は、教育委員会が携わっていくべき問題だと思います。5校会に任せて保護者が自分の仕事を割いて一生懸命頑張っている姿を見ますが、行政として手を差し伸べるべきでは。

教育長 まさにこの学童保育が教育委員会と横の連携を取りながら、子どもの安全安心と同時に学習習慣が付く方向性で、厚生労働省と文科省が協議を進めて施策も出ております。

近辺では、飯塚市が学童保育と学校との連携を密にしています。

本町では、運営が保護者なので、教育経験も指導経験もない方もいます。子どもたちの安全安心と同時に、本当にゆっくりと学童保育の中で生活でき、勉強も出来るような体制づくりに、今後模索していきたいと考えております。

町長 保護者の運営する5校会に委託している状況では、確かに限界が来ていると認識しており、最近、学童保育を受託する民間業者の存在があり、来年度以降は、そういう方向で検討してまいろうかと考えています。

議員 指導員の給与の低さで、成り手が少なく、辞めていく指導員が原因で、子どもたちの心を乱す上でも行政が見届けていただきたい。

町長 決して労働条件の良い状況ではないと承知しています。30年度はだいぶ改善されたが十分ではないと承知しています。民間に委託すれば会社の方が保険を掛けるなど、労働条件は改善されると思います。教育委員会との連携というものがご指摘のように大事なことだと思っています。指導員の身分安定、労働条件の改善に取り組んで参りたいと思います。

議員 民間委託・NPOのお話は保護者の耳に入っているのですか。健やかに成長させる子どもの最善の利益を念頭に置いてのお考えを。

教育長 民間委託にするのか、今の5校会でやっていくのか迷っているという相談を受け、現状把握をしていくことと、どう変えなければいけないのか、今、知恵を出しているところです。

問 新築町営住宅の防音対策は

答 苦情は一切聞かれてない

議員 現在新築の大峰団地・豊州団地は6階建てですが、住んでいる方が日中だと気にならないが、午後10時以降仕事や学校で遅く帰り、お風呂、洗濯機、お手洗いの音が気になる、隣の音も聞こえるので心配しています。住宅課に苦情が入ってないか尋ねるとともに、アンケートを取ってみてはいかがですか。

また、町長の答弁で皆さんが納得されると思いますが。

町長 共同住宅が豊州団地1棟24戸、大峰団地2棟60戸が完成し、生活しています。住み心地等に関しまして建築課で、聞き取りを行っていますが、隣の部屋の音、また物音が響く等の苦情の報告は今のところございません。

新しい共同住宅は鉄筋コンクリート造で壁には断熱材を施し、騒音に優れて各部屋のプライバシーは保たれていると認識しています。町としては、現状の姿で今後建築していきたいと考えています。

問 企業に川崎町地域おこしの協力要請をしてはどうか

答 積極的に検討します

議員 ①国の地方創生政策の中で、企業が行政を支援する「地域活性化包括協定締結」が進んでいますが、本町ではどうなっていますか。
②町の各種委員会に企業社員の方に就任してもらえないか要請しては。
③町と建設業業界とで災害復旧協力に関する協定があるようですが、どんな内容ですか。うまくいっていますか。

町長 ①これまでも町は民間企業と連携して地域振興を図ってきましたが、包括協定締結は地方創生に役立つと考えており、積極的に検討して参ります。
②民間の経営感覚、コスト意識は職員の意識改革にも生かされます。企業参加を促せるよう検討して参ります。
③災害応急工事については、平成24年度に業者ごとの賃金、諸経費率を統一し、請求額95%で契約する協定になっており、特に問題ありません。

問 広報公聴の現状を考えよう

答 町の広報変わったねと言われたい

議員 ①広報誌の改編刷新を提案します。閲読率はどのくらいですか。住民アンケート調査の実施を求めます。
②庁舎の掲示板が分かりにくいところにあります。どうにかなりませんか。パソコン、スマホ時代の広報公聴にどう対応しますか。

町長 ①広報紙の第1号発行は昭和25年です。以来、様々に紙面改良を行って来ました。今後も研修を積み、皆さんが読みやすい紙面づくりに努力します。
閲読率調査は特にやっていません。
②掲示板が分かりにくいとの指摘を受け止め、その対策を検討します。広報のIT化はこれまでも推進してきましたが、来年4月には町内超高速ブロードバンドが稼働になります。その利点を生かした対策をとって参ります。

問 職員の育成について

答 地域性を反映した研修を考える

議員 地域おこし協力隊員がマスコミの脚光を浴びていますが、主力は常勤職員。公務員の65歳までの雇用延長に向けた再任用制度も始まりましたが、職員活用と育成の考え方を伺います。

町長 町外に住む職員が40%ですが、地域密着の行政を行うのは当然であり、新規採用に当たっては、職員に地域を知る努力を求めて参ります。また、再任用職員の研修についても考えます。

問 暴力追放運動の復活を

答 啓発運動を考えます

議員 本町には、国の、いわゆる暴追法を受けた暴力団排除条例と、暴走族根絶条例がありますが、形ばかりで機能していません。それぞれの協議会をきちっと運用して効果を発揮して下さい。

町長 暴追大会は平成28年度から田川広域で開催することとしたため町単独では行っていませんが、啓発活動実施の必要性はありますので、そのやり方を検討して参ります。

問 3中学校統合後の教育構想は

答 1校に予算を集中配分。それにより部活動、生徒会活動の活発化、他校との交流事業促進で母校愛の高まりを期待しています。

問 2020東京オリパラ開催に関連した町の体育振興計画づくりを

答 国が主催する体育研修会等への参加、聖火リレー中継地への立候補、スポコン広場の開催、オリパラキャンプ地との連携するなどオリパラへの取り組みを今後とも推進します。

▲昭和39年（1964） 川崎町の聖火リレー走者（冨原茂昭さん）

問 ペットを飼う高齢者にサポートを

答 情報提供や指導を行っていく

議員 高齢化と核家族化が進み、一人暮らしの高齢者が、家族としてペットを迎え入れ心の糧にするケースが増え続けています。
しかし、飼い主が孤独死したり、入院したりすることでペットが取り残される悲劇が問題視され始めています。本町ではトラブル等は発生していませんか。

町長 本町にも対象者は一定程度おられると思いますが、町として対応したケースはないので、把握はしておりません。

議員 日本で殺処分される犬や猫は20万匹以上です。現在では、人間と動物の共存を福祉の一要素とし、犬や猫の避妊手術に補助金を出したり、飼い方指導のイベントに予算を捻出したり、災害用にペットフードやケージを備蓄する自治体が増加しています。
高齢化が進むにつれ動物を家族として慈しむ高齢者は増えていくと思いますが、本町は、今後、何らかの対策を考えていますか。

町長 ペットを飼う場合は、最後まで責任を持つことが飼い主の努めだと思います。入院や死亡等で飼えなくなった時には、預かってくれる方を決めておく事が重要なので、今後も、情報提供や指導等を行ってまいりたいと考えております。

問 会計年度任用職員制度導入の進捗状況は

答 平成32年度から採用予定

議員 法改正により、会計年度任用職員については、報酬、費用弁償及び期末手当のほか各種手当てが支給され、勤務時間及び休暇についても明示されています。よりよい行政サービスの提供や人材の確保のため、法律上の勤務条件の整備を図っていただきたい。
また、現在の非常勤職員は、官製ワーキングプアとも言われるような状況もあると思いますので、全体の処遇改善にも取り組んでいただきたい。
スケジュールの進捗状況はどうなっていますか。

町長 本年度中に任用根拠の明確化、適正確保に向けた検討、職員組合との協議を行なう必要があります。条例規則等は31年6月議会までに整備し、9月以降に募集を行い、平成32年度から採用予定になっております。

問 災害発生時のタイムラインは

答 国交省の防災行動計画を活用

議員 本町では、地震で地すべりを起こす盛り土造成地の調査はされましたか。
また、小中学校のブロック塀は大丈夫でしょうか。

町長 盛土で形成された町有地については把握していません。

教務課長 点検を行ないましたが、建築基準を超える2.2m以上のブロック塀はどこにもありません。川崎中学校に劣化が進んでいる所がありますので、立入り禁止にし、中学校統合の折に整備したい。

議員 事前に被害の発生が見通せるリスクに対して、関係機関が実施すべき対策をプログラム化したタイムラインが被害の最小化に役立つと言われていますが、本町は作成されていますか。

町長 気象庁等の情報を収集し、国土交通省の防災計画を活用しています。台風については県の台風災害に備えたタイムライン及び、九州地方整備事務所のタイムライン等を活用しています。

他に**面前DV等の児童虐待、生活困窮者支援制度**について質問しました。

問 現在の水害対応治水は限界 緩衝調整池、バイパス運河の増設を

答 大きな予算の伴う事、財政上地方からの提言は難しい

議員 災害にどういうふうに対処するか、危機管理ということを痛切に考えさせられる出来事が、この２カ月間の間に続けざまに起こりました。

７月初めの筑豊地区大雨、西日本広島豪雨、台風21号、そして今月６日の北海道地震と。

これらの出来事は、この日本列島には実は大きな危険が内在しているということが顕わになって、そしてそれがこの川崎町や私たちの近くにもあり、決して遠くの出来事ではなく身近に想定外の事が起こるのだと痛感させられました。

古来より時の為政者の大きな仕事の１つが治水であり、名君と呼ばれる殿様は暴れる川を静め治め、そして農政や民生に寄与することでした。

さて、これからの危機管理対応に関しては、町村で当然できるような規模の小さなものではなく、国県の動きと責務によるところが大きいのですが、今回起こったことの地方の切実な状況と実態をつぶさに伝え、加えて、具体的にバイパス運河や暗渠水路、緩衝調整池などの設置を地方からの提言として力を込めることが肝要だと考えていますがいかがですか。

町長 かつて道路をつくる場合は、起こることはないけれども１時間に50ミリの雨を想定をして道路の側溝をつくりなさいと言われておりました。ところが６月29日は川崎で１時間に110ミリという雨が降りかつては想像もつかなかったような状況に至りました。

これからは災害対策に対する抜本的な意識改革と、そしてそれに伴う建築物についての構造改革ということもやっていかなければいけないというふうに思っております。

ただし、本町や国の財政のことを考えれば、バイパス運河や暗渠水路、緩衝調整池等は話としてはあるかもわかりませんけども、具体的な計画が無い以上、働きかけをするにしても非常に難しいと考えています。

議員 かなり困難な事だとは思いますが目の前に差し迫った危機でもあります。対処を望みます。

町長 今の地方からの立場では国や県にその様な提言ができるような状況ではないと思っています。

問 今後のために 今回の原因究明を

答 専門家による調査中、観測結果をみて対策をかんがえる

議員 今後の危機管理のためにも、その原因をつぶさに分析する必要がある、学識者、専門家の調査分析は進んでいるのか、その報告を求めます。

町長 今年７月の公共災害は、町道、河川、林道、農道水路施設、林地崩壊など計25カ所に発生しておりまして、国の災害復旧の査定は９月から11月にかけて行われています。

その中で著しく法面が崩壊し町道をふさいでいる高見団地法面崩壊箇所につきましては、県有地であり県営住宅課が被災した法面と町道の災害復旧工事を行います。

被災原因につきましては、九大大学院の先生による被災メカニズムについて、24時間雨量が500ミリを超し、地下水の上昇に伴い間隙水圧の上昇で地盤の強度低下を招き、地すべりに至ったいう見解が出されています。

復旧は、今年中に災害査定を受け今後の対処について協議検討したいと考えております。

問 投票日当日の投票時間の繰り上げは

答 今後慎重に選挙管理委員会で検討

議員 2016年、九州７県の６時以降の投票率が５％未満だった自治体が多かったことから、九州の中でも投票所の６割が時間短縮を実施しました。川崎町も大体５％以内なので低い方だと思います。

投票時間の短縮は、経費の削減、労力の削減につながり立会人の負担軽減にもなります。検討の余地があるのではないですか。

総務課長 人数で言うと600人近くの方がこの時間に来られているので、この方々の投票の機会を奪っていいものかという事と、投票率が下がるといった問題もありますので、今後慎重に選挙管理委員会で検討して行きたいと思います。

問 通学路や学校に防犯カメラの設置を

答 設置について検討中

議員 本町の通学路は安全なのか、危険箇所の現状をどのように把握され、その情報提供や対策はどうしていますか。

教育長 ９月いっぱいに学校、保護者、地域住民による合同緊急点検を実施します。不審者情報が発生した場合は各学校に連絡し、そこから学童、関係部署、地域にお知らせしています。

議員 子どもたちに防犯の心構えと危険を察知する知恵を伝えることと、同時に犯罪を未然に防ぐには、通学路や学校に防犯カメラの設置も必要ではないですか。

教育長 通学路の緊急点検の結果を待って、今後関係機関との協力のもとで検討していきたい。

問 ヘルプカードの活用と普及の取り組みは

答 精一杯努めていく

議員 必要な支援内容が記載されたヘルプマーク･ヘルプカードは、障がいのある方などが災害時や日常生活の中で困った時に周囲に自己の障がいへの理解や支援を求めるためのものです。このヘルプカードの活用と普及に向けての取り組みは。

町長 障がいのある方、認知症のある方、難病の方、妊娠している方など、このカードを身に付けておくことで周囲の人は困っていることにすぐに気づくことができるよう作成されたもので、本町でも早速、県より取り寄せ役場窓口等で配布し周知に努めたいと考えているところです。

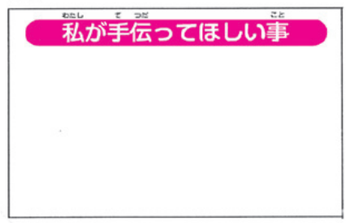
議員 ヘルプカードの存在自体があまり知られてはいません。障がいを持つすべての方が安全安心に日々を過ごせるように皆さんにヘルプカードを知ってもらい、理解を深めていただき、障がい者福祉に関わるまちづくりの推進をしていただきたい。

町長 御指摘のような方向で障がい者福祉計画も作成していますので、精一杯努めてまいりたいと思います。

福岡県の『ヘルプカード』を作りました！
～あなたの手助け、それは障がいのある方の安心につながります～

（おもて）

（うら）



もっと知りたい 委員会レポート

委員会の活動状況を報告します

議会では年４回の定例会の休会中は、それぞれの委員会に分かれ、所管の現地調査や机上審議をしています。

７月豪雨による被災箇所の現地調査を実施

総務常任委員会

７月豪雨により甚大な被害を受けた上豊州団地から愛光園へ通じる町道、安宅新屋地区の町道、安宅戸頃地区の裏山、魚楽園、下真崎から木城へ通じる県道、県営高見団地の法面、旧大峰小学校へ通じる町道、西田原322号バイパス下の土田川、以上の８箇所の現地を確認しました。

現地調査では豪雨による被害の甚大さを改めて確認することができました。被災した方々に対し心からお見舞いを申し上げますとともに、執行部に対し、一刻も早い完全復旧に向けて、不断の努力を続けるよう要請しました。

町内の消防施設の現状を調査

▲町内の防火水そう

▲町内の消火栓

現在、町内に設置されている防火水槽の総数は236箇所であり、その設置箇所の内訳は道路内が129箇所、団地内が36箇所、民有地が42箇所、町有地が29箇所であります。また、消火栓の総数は221箇所で、その内訳は地上式が124箇所、地下式が97箇所であります。

防火水槽や消火栓は、毎年、消防署が点検を行っていますが、今年の春の点検では、町内の防火水槽や消火栓の中で、34箇所において不備があったと消防署より報告があったそうです。

委員会からは、不備のあった箇所や使用できない箇所について、施設の修繕や廃止等を含め、優先順位を定めた整備計画を策定し、整備を図っていくよう要請しました。

職員再任用制度の内容と現状を調査

職員の再任用制度は、平成25年度から公的年金の支給開始年齢が65歳に引き上げられたことに伴い、定年退職する職員に無収入の期間が発生しないよう設けられた制度であります。

再任用制度の対象者は、町職員として25年以上勤務し、定年退職または退職５年以内で、60歳以上65歳以下の者が対象となります。

採用方法は、再任用選考委員会に諮問して選考し、町長が採否を決定いたします。

本年度は週５日勤務の方が17名、週３日勤務の方が18名の計35名の再任用職員が在籍しています。今後、退職者の７割が再任用を希望すると仮定した場合、平成40年度の再任用職員数は、週５日勤務の方が20名、週３日勤務の方が７名、計27名の予測が示されました。

委員からは、再任用職員が長年の役場勤務で培った能力を十分に発揮し、住民に効果を示せるような再任用職員の配置を要請いたしました。

福祉政策についての行政視察

民生文教常任委員会

７月５日から６日にかけて島根県奥出雲町へICTを活用した高齢者福祉政策について視察に行きました。

まず、高齢者見守りSOSネットワークシステムについての説明では、高齢者などが行方不明になった場合、早期発見するため、携帯電話のメール機能を使い、情報提供を呼びかけたり、事前登録された協力者へ行方不明者の情報を一斉配信し情報提供をお願いしているとのことです。

そして、65歳以上の一人暮らしの高齢者や重度身体障がい者のいる世帯に対して、家にいる時に身の危険を感じた場合など、非常用ボタンを押すと、民間の警備会社から警備員へ緊急出動要請を行ったり、電話をして安否確認が行われるというサービスがあります。また必要な場合は、警備員が救急車を呼ぶなどその後の対応をします。

また、地域包括支援センターでは、認知症の早期発見・早期治療として、大学病院と連携してipadを利用した認知症検査を実施しているとのことです。このことにより、いち早く認知症の確認が行えるようになり、早期のサポートが出来るようになったということです。

なお、本町でも間もなく高速ブロードバンドが整備されますので、ICTを活用したさまざまな福祉や教育などの行政サービスを充実させていきたいと今回の研修を通じて感じました。

▲ ipad を利用した認知症検査

所管する施設等の運営状況調査

●子育て支援センター

状況報告及び活動報告について、報告を受けました。委員会からは子どもの権利条例についてのリーフレット配布に際して、委員みずからが学校などへ出向き、権利条例について説明できるので、遠慮なく言ってほしいということを伝えました。

●同和保育所

園内を見て回り、親も子も人としての教育が基本にあり、親子で学ぶスタイルが行き渡っていることを感じました。

その後、保育所の職員と意見交換では、人員不足による負担増など、多くの問題を抱えていることが問題点と感じました。

▲同和保育所での意見交換会

●愛光園

組織体制、年間行事、入所者の状況などの説明を受けました。委員会からは、相談に来た方の立場に立って対処していただきたいということや募集に際しもっと広報紙を活用するべきという意見や民間でも行っている１日入所体験を実施するように要望いたしました。園側からは、これから積極的に地域の方にも、入所してもらえるようにしていきたいということでありました。

●隣保館

開催されているさまざまな教室の説明を聞き、委員会からは、開催されている教室で人権啓発などの勉強会などを年に１回くらいは行うようにしてみてはどうかという意見がありました。また町には施設が多数あるが、それぞれにおける役割分担や連携などの状況を尋ねたところ、今後どういうふうな計画で具現化していくかなどを考えていきたいという回答がありました。

岩手県で鳥獣被害対策・観光農園の取り組みを視察(6月26日～28日)

建設産業常任委員会

遠野市では、市民参加型鳥獣被害対策「ニホンジカ捕獲応援隊について」視察をし、本町もシカやイノシシ等の増加や鳥獣被害対策を担う猟友会の方々の高齢化等も考え、猟友会以外の方にも被害対策に参加してもらえる体制づくりが必要ではないかと考えます。

岩手町の「いわてまちブルーベリー観光農園」の取り組みについては、本町も１年を通し色々な果樹が収穫されます。川崎町も連携を図り１つの大きな果樹観光の町となれば、交流人口の増加にも繋がるのではないかと考えます。

また、美味しい果樹を使用した特産品等が早く開発され、町内の方はもちろん町外の方にもＰＲ出来るようになると観光振興、雇用対策、消費喚起など町が元気になるのではないかと思います。

訪問地の道の駅や農産物直売所は、それぞれ特色を生かした特産品や景観作りなど行っていました。どこの道の駅も農産物直売所も平日の昼間でもたくさんの人が利用し、賑わっていました。

川崎町営住宅長寿命化計画修正

今回の見直しの内容は、管理、統計データによる最新数値の修正。改定内容として、点検、データ管理、計画修繕。事業手法の選定。LCC算定手法の３つが追加事項であると説明を受けました。

当委員会より、計画にあります３年に１度の点検を確実に実施し、データベース化を行うには予算も必要になってくると思われるので、財政面での協議をしっかり行っていただきたい。

また、修正した計画については、課長をはじめ担当職員には熟知するよう言及しました。

水道企業団へ訪問(所在地・・・赤村大字内田)

伊良原ダムより水道企業団を経て、本町へ水が送られています。水道企業団では、24時間体制で専門の職員が安全で安定的な水の供給が出来るよう中央操作室で監視を行っていました。

水道事業について前回より引き続き調査を行い、本町で使用される水の一連の流れを確認することが出来ました。

◀監視操作盤で説明

甚大な被害を及ぼした７月豪雨は

◀土田川（中田原）

▲大峰小学校線（大峰浄水場上）

▲高見団地から米田東川線を見る

▲戸頃山林崩壊（安宅地区）

▲米田東川線（B&G 付近）

▲不動戸頃線（安宅地区）

▲戸谷ケ岳林道（りんご園へ向かう道路）

７月豪雨の被災地の現地調査を行い、すぐに対応できるところや２次災害の可能性の有無等調査を行わないと工事に入れない、大規模な工事により復旧までに長期間を要する等説明を受けました。

被害を受けました方々には、心よりお見舞いを申し上げます。また、猛暑の中で作業を行っている方々にはお礼を申し上げるとともに、執行部に対しては出来るだけ早期復旧に努めていただきたいと要望しました。

解体前の川崎中学校及び仮設校舎の現地調査

統合中学校に関する調査特別委員会

解体前の川崎中学校校舎の現地調査を行い、廃棄するエアコンについては、ガスを回収したあとに処分するよう、またキュービクルの設置が必要かどうかの確認、そして仮設校舎に防火管理者の表示がなかったので、正副も忘れずきちんと表示しておくよう、この３点について要請しました。

工事期間中の生徒の安全対策について

工事期間中は、中学校から太田方面を通って東川崎の旧上山田線の町道までを工事車両の道路として指定をし、工事車両が通行する道路には、２名から５名までの警備員を配置するということでした。さらに、登校時には工事車両は一切通行させず、また下校時には、極力最徐行をして注意しながら走行してもらうなど、生徒の安全確保に努めながら、工事を進めていくという説明を受けました。

委員会からは、工事車両の指定道路区間に路側帯のない区間があることから、生徒の安全確保のため、路側帯の設置を要請しました。

統合中学校通学路の安全対策について

現在、生徒が安全に通学できるための調査の方法など、総務部会での検討に向けて準備を行っているとのことであります。

委員からは、町内３中学校からの通学路の安全対策に関する検討経過を委員会に報告するよう要請しました。

統合中学校等の工事について

32年度の開校に向けて、仮設校舎、旧校舎解体、新校舎及びグランド整備に係る、それぞれの工事の工程について説明を受けました。

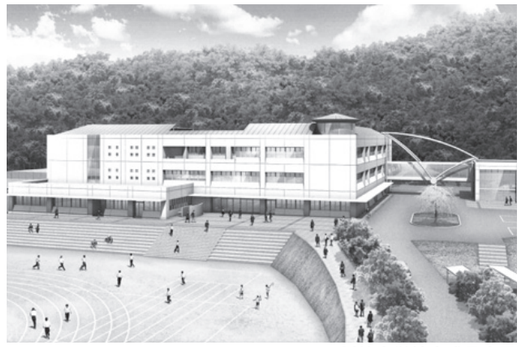
解体工事中の工事車両は、工程会議の中で打ち合わせをしながら、安全管理に努めていきたいとの回答がありました。また、工事に使用する大型トラックの燃料違反がないよう業者への指導徹底を要請しました。

委員より、IT機器の活用方法を図面で示してほしいという意見には、ICT関係は31年度に予算計上を計画しているという回答がありました。

次に、新校舎の工事概要としては、鉄筋コンクリート３階建て、延べ面積6384.96㎡、予定工期は平成30年10月下旬から平成32年２月下旬ということでした。

今回の入札方法については、大手１社に発注することで命令系統が１本化でき、スケジュール管理等がしやすく、設計をまとめて発注することによって一般管理費等の軽減が図れるという理由により、本体・電気・機械工事すべて合わせたところの大手業者による一般競争入札で実施するとのことでした。

また、委員会では、入札参加業者に対し、下請業者に川崎町の業者を必ず使うよう指導していただきたいと要請いたしました。



▲川崎中学校完成予定図

議会の傍聴においでください

次回定例会予定

◎12月　4日…本会議(初日)
◎12月　7日…本会議(中日)
◎12月12日…本会議(一般質問)
◎12月13日…本会議(最終日)

今回の主人公

下真崎区

柳武千絵さん（保育士）
ひろと君（真崎保育園５才）

町制80周年記念「仮装大会グランプリ」親子

●グランプリの感想

ハロウィンが雨で中止になりこちらにスライド登板でした。
ステージで子どもが照れてグズっていたのでダメかと思っていました。
番号を呼ばれてびっくり。とても嬉しかった。

●仮装製作の苦労

子どもと一緒にペンキを塗ったり、伸び縮みハシゴを工夫したり、トランスフォーマー風にしたり、ヘルメットの消防署マークは子どもも喜んでくれました。
物を作るのが好きなので楽しく作りました。

●抱負

来年のハロウィン仮装も頑張ります。

◁◁追跡レポート

超高速ブロードバンドの進捗状況は

2016年9月　寺田響議員の質問

インターネットが広く浸透してきましたが、本町では、光ファイバー等による超高速ブロードバンド接続へと移行できていませんでした。平成29年３月に予算が議決され、平成29年度から、サービス開始に向け動き出しました。

現在、現地調査･基本設計は完了しました。

平成31年２月末に住民説明会

３月初旬に申込受付開始

４月からサービス提供を開始する予定です。

インターネットの環境が格段に良くなります。

編集後記

日本列島、何が起きてもおかしくない世の中になりました。
８月９月10月と地震･台風･豪雨と、
次から次へおこる自然災害
安全が保障されていない現実
自分の生命は自分で守ることの大切さを家族の間で
密に話し合うきっかけになればと願っています。

【発行責任者】
● 議長　北代俊雄
【議会だより編集特別委員会】
● 委員長　千葉加代子
● 副委員長　手嶋真由美
● 委員　松岡久代
● 委員　大谷春清
● 委員　小田卓
● 委員　寺田響
● 委員　樋口秀隆

□住所　〒827-8501　福岡県田川郡川崎町大字田原789-2
□発行　川崎町議会　■編集　議会だより編集特別委員会　□印刷　㈲川崎印刷